

# 景況レポート

(2月分・情報連絡員80名)

## 業況DI値大幅に後退

### 【概況(全体)】

2月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが6.3%(前回調査13.8%)、「悪化」が36.3%(同28.8%)で、業界全体のDI値は-30.0となり、前月調査と比較し15.0ポイント下回った。全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は製造業・非製造業ともに全国及び東北・北海道ブロックを大幅に下回り、低調に推移した。

### 【業界別の状況】

食品製造業をはじめ、卸売業などで業況の悪化割合が増加し、建設業などで好転割合が減少したことで景況感が悪化した。

なお、全体の景況感は、度重なる大寒波に伴う物流・商流の混乱や操業難が各地で発生したことにより、全国的に経済活動が下押しされたことに加えて、外出控え等による国内消費の減退も強まっている一方、年度末需要の動きを前にして、さらなる製造コストの増大や雇用難・労働力不足も依然逼迫している状況にある。

### <全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-30.0	-16.7	-20.7
製 造 業	-31.2	-13.4	-18.7
非製造業	-29.1	-19.3	-21.9

### <景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り 10未満  
 雨 30以上  
 雷雨 30以下

【天気図の見方】

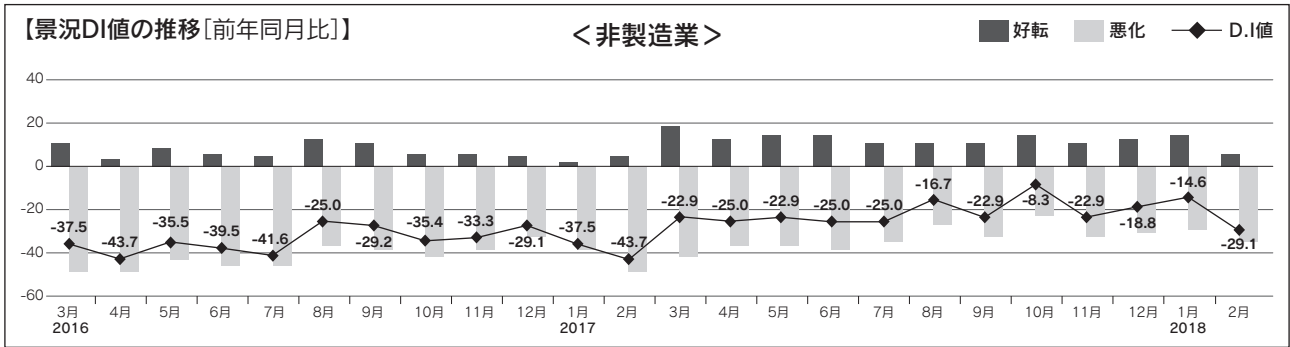
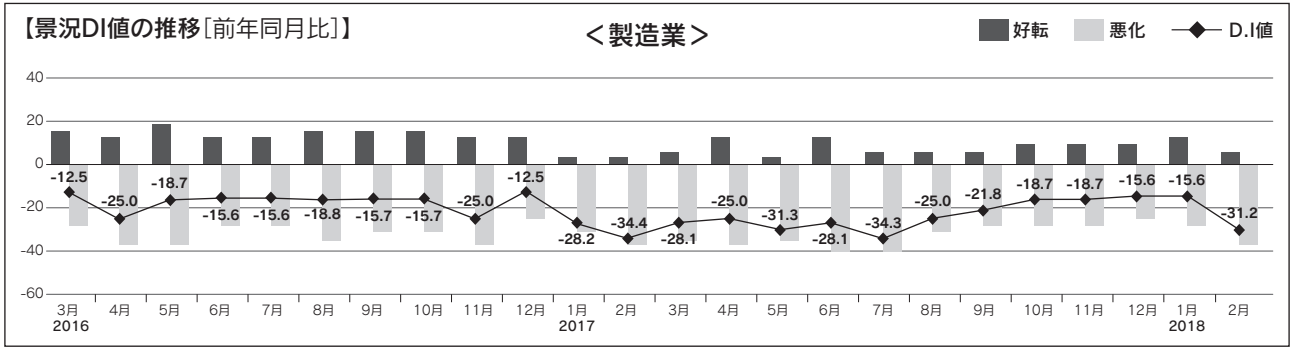
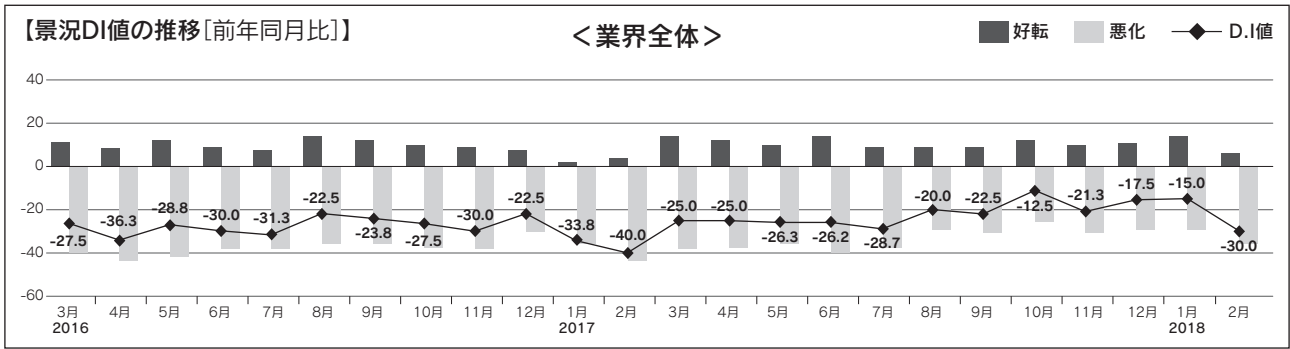
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (菓 子)	小正月行事が各地で行われ、人出の多い所は売上増加もあるようだが、原材料の仕入単価の上昇や個人消費の低迷が続く厳しい状況にある。
食 料 品 (清 酒)	1月の出荷数量は1,081,850ℓで前年同月比95.4%であった。タイプ別では吟醸酒110.7%、純米酒100.1%、本醸造109.6%で前年同月を上回ったが、レギュラー酒については87.5%と低調に推移した。
食 料 品 (米飯給食)	2月はコンビニエンスストア、量販店、特注弁当で前年同月を上回ったものの、学校給食の実施日数減、宅配弁当の値上げによる受注減のため全体では98.0%で推移した。収益面では、コストの増加により減益の見込みである。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	夏物生産が最盛期に入り各社とも昨年並みの受注は確保されている。しかし、相変わらず加工賃が上がらず、採算性の向上が難しい状況である。
木材・木製品 (一般製材)	記録的な寒波により、原木の凍結に加え、製造機械も部分的に凍結したことで稼働率が低下し、原木消費量が通常より4割減少した。併せて、製品の生産量も計画どおり進まなかったことから、売上も前年比減少となった。
木材・木製品 (外 材)	2月の外材入港はなかった。合板については、2月に入って需要全体が落ち着き荷動きに一服感は出てきたものの、受注残の消化や在庫量の回復に向けて増産体制が続いている。米材等輸入材の価格上昇や接着剤の値上げ等から合板価格も値上げ傾向にあるが、収益状況に変わりはない。
印 刷	年度変わりの需要期を迎えているが、点数、量とも回復を実感するに至っていない。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	2月の出荷数量は、前年比98.5%での推移、4月～2月累計では92.3%と厳しい数字となっている。前年を上回っている地区は、鹿角、秋田中央地区のみとなっている。
鉄鋼・金属 (機械金属)	1月の売上は648,629千円で前年同月比93.1%、前月比98.4%で推移した。受注残については前年同月比、前月比ともに上回っている。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	例年のこの時期は受注及び工場の稼働率にバラツキが見られる。この先4～5月頃までは低稼働率になるのではと多少不安な状況にある。最近の見積は大小物件問わず、増加傾向にある。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (自動車中古部品)	2月に入り鉄価格が2回下落し、単価は36,000円/tとなった。相場の下げ止まりを見守っている状況にある。使用済自動車の入庫については前年同月比で5%減となっている。
卸売業 (古紙)	国内在庫の増加で価格が1円~2円下がった。電子書籍など紙の使用が少なくなっている影響から回収量は9.5%減となっている。
小売業 (クレジット)	2月期の総取扱高は、前年同月比6%の減となった。大型店、一般小売店共に売上高が減少しており、消費の冷え込みが懸念される。(東北地区)
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は、1ℓあたり142円70銭で前月比10銭の値下がり、軽油は1ℓあたり122円40銭で前月比20銭の値上がりとなった。配達灯油18ℓは1,605円で前月比2円値を下げた。原油コストが落ち着き、為替レートも極端な動きもなく、安定した市況であった。
商店街	食料品、家電販売は前年並みの売上、身の回り品、生花、酒類販売については前年同月を下回った。(秋田市)  犬っこまつりの主会場が中心市街地から総合体育館周辺に移ったことから、昨年までのように観光客は流れてこなかった。(湯沢市)
サービス業 (自動車整備)	自動車検査台数実績では全体で前年同月比9.2%減少した。内訳は登録車が13.6%の減少、軽自動車も3.3%の減少となった。また、4月~2月累計では対前年同期比1.0%の減少となった。
サービス業 (旅行)	国内98%、海外101.4%と好調である。ただ、国内は悪天候が多く飛行機の欠航等で、期待した実績に届かなかった。
建設業 (電気工事)	マイナス金利政策によって住宅業界は好転しているようであるが、物件材料はハウスメーカーが抑えており、電材業界や電気工事店にはその恩恵はない。公共工事もないことから昨年並みの状況にある。(中央地区)
運輸業 (トラック)	荷動きは低調、軽油価格の高止まりが経営を圧迫している。(中央地区)